



目 次

|                                |                 |    |
|--------------------------------|-----------------|----|
| 支部長ごあいさつ                       | （60、S48年卒）中西 憲幸 | 1  |
| 総会での話題提供①「ミステリアスなPMSの世界」       | （82、H7年卒）鏑木 淳平  | 2  |
| 総会での話題提供②「医薬品産業における諸制度と知的財産戦略」 |                 |    |
|                                | （72、S60年卒）内山 務  | 2  |
| 故郷の山々                          | （46、S34年卒）五十嵐俊二 | 3  |
| 上州は遺跡で有名                       | （57、S45年卒）保坂 公平 | 4  |
| 製薬協での5年間を回顧する                  | （58、S46年卒）石井 誠司 | 4  |
| “薬大6年制”に思う                     | （59、S47年卒）白瀧 義明 | 6  |
| 坂東生誕44周年にあたり                   | （78、H3年卒）坂東 裕志  | 7  |
| 母校に感謝。世代を超えた繋がりを薬窓会で！          | （84、H9年卒）宅和 知文  | 7  |
| 野菜作りませんか？                      | （90、H15年卒）上野 陽子 | 8  |
| 白回卒生の話                         | （99、H24年卒）五月女達也 | 9  |
| ゴルフクラブ便り                       | （55、S43年卒）柿崎 直和 | 10 |
| 平成24年度首都圏支部活動報告・支部役員           |                 | 12 |
| 平成24年度会計報告、平成25年度予算（案）         |                 | 14 |
| 平成24年度 支部年会費納入者一覧              |                 | 15 |
| 編集後記                           |                 | 18 |
| 平成25年度定期総会開催案内及び会場交通案内         |                 | 19 |



## この1年を振り返って

富山薬窓会首都圏支部長（@、S48年卒） 中西 憲 幸

東日本大震災から2年が経過し、福島第一原発の事故処理は遅れているものの、ようやく社会が落ち着きを取り戻したように思います。薬学部で6年間学んだ薬剤師が社会に進出し、活躍し始めました。薬学部の数が増加したものの、学生の質が低下したので、薬剤師国家試験の合格者数は増加せず、薬剤師不足は解消していません。

診療報酬の改正で処方せんに一般名で記載すると加点されることになり、一般名処方が増えました。商品名を一般名に書き換えるのは手間がかかるので、従来なら一般名処方は進まないところ、処方せんはほとんどがPCで入力するため、システム変更により簡単に変更できることになりました。薬剤師は一般名処方について、患者に先発品かジェネリックの選択を委ねることになりますが、薬局ではジェネリック比率を高めると調剤報酬が上がるので、概ねジェネリックを推進します。その結果、ジェネリックの物量は厚労省の目標値30%に届かないものの、かなり上昇しました。

OTCのネット販売について、最高裁は厚労省のネット販売禁止の省令は違憲の判決を出しました。最高裁がOTCのネット販売を認めたのは、省令がその上位にある薬事法から「委任された範囲」を逸脱しているから違法ということです。この論議の行き着くところはOTCの対面販売における薬剤師の役割にあります。薬剤師が書面をもって説明する第一類医薬品の販売がなおざりにされている実態調査の結果をみると、悲しくなってきました。薬剤師がOTCの販売に際し、しっかりと患者に説明し、患者から期待されている役割を果たしていれば、一部の例外を除き、ネット販売は推進されなかったのではないのでしょうか。

さて、今年の総会から参加者の平均年齢が大きくなりました。話題提供の演者が若くなったこともありますが、若手のなかにリーダーシップをとってくれる人が集客してくれました。まだ、総会の内容が若手のニーズに応えきれていませんが、これを機に参加してよかったと言われる首都圏支部にしていきたいと思います。

薬多津三金会（俗称三金会）はすっかり定着し、定例メンバーに加え、毎回新しい参加者があり、仙台の牛タンに舌鼓を打ちながら楽しいひと時を毎月楽しんでおります。

予算は厳しい状況ですが、今年は次の手を打ちました。一つは年会費の1,000円から1,000円以上への変更です。総会の参加費は8,000円なので、10,000円札を出される方には、年会費を2,000円支払ってもらい、おつりを出さないようにしました。また、案内状の発送を業者に任せず、三役を中心に幹事に集まってもらい、袋詰めなどの手作業をみんなで分担し、費用は郵送料だけにしました。葉書や簡単な案内状もコピー機を使い、首都圏遠久架の印刷は見積もりを取り、最も安い印刷会社に変更しました。これにより100万円の取り崩しは大幅に下がると思います。

支部長には今後も同窓会を継続する使命があります。今後とも同窓会運営にご協力ください。

## 話題提供①

### ミステリアスなPMSの世界

(㊟、H7年卒) 鏑木 淳平

製造販売後調査Post Marketing Surveillance (PMS)・・・言葉は知っていても、一体どんな目的でどのようなことが行われているか、知る機会はありませんのではないかと思います。PMSの起源は1900年代半ばに起こったいくつかの薬害事件に遡ります。1948年～49年に83人の死亡者を出したジフテリア予防接種による健康被害を皮切りに、キノホルム製剤によるスモンの発生、クロロキンによる網膜症、そして有名なサリドマイド事件。これらの薬害事件を繰り返さないよう、1967年(昭和42年)「医薬品の製造承認等に関する基本方針」(厚生省薬務局長通達)によって、新医薬品に承認後2年間の副作用報告義務が課せられたことからPMSの概念は始まったとされています。その後、数回の見直しなどを経て、現在の市販後調査は3つの制度、定期的に安全性・有効性の評価を行う「再審査制度および安全性定期報告」、時代に見合った価値観で主として有効性を見直しを行う「再評価制度」、日々の副作用・感染症の発生状況を監視する「副作用・感染症報告制度」の「3本柱」で成り立っています。

・・・と、ここまでは教科書的なPMSのお話ですが、このように当局の規制に則った活動を適切に行うことはPMSの重要な役割なのですが、実はPMSの世界はそれに留まらず、実に奥が深いのです。PMSの目的の一つに、リスクと薬剤の因果関係をいかに白日の下にさらすかということがあります。1万人に1,000人位に起こる副作用であれば、上記のような監視制度の中で、薬剤との因果関係は簡単に明らかになるでしょう。しかしながら、実際には1万人に10人、あるいは1人程度にしか起こらないような稀な副作用もあります。このような稀な事象を、先に述べた3本柱の活動の中だけで気がつくことができるのでしょうか？

また、PMSにはもう一つの目的があります。薬剤が臨床の現場において開発時の見立てどおり有効性を発揮しているかどうかを明らかにすることです。そのために数千例規模の臨

床試験を行うこともあります。医療は日々進歩しており、臨床の現場では、常に、患者さんにとって最も効果的で安全な治療とはどういうものかを突き詰め、最新の知見にアジャストさせながら治療を進めています。これらに対し、PMSは時に重要な役割を果たしています。また、時には競合品との差別化の目的にPMSを活用することもあります。

本講演を通じ、医薬品が臨床現場で適切に評価され、使用されるためにPMSがどのような役割を果たしているか、あまり知られていないミステリアスなPMSの世界を知るきっかけになっていただけると幸いです。

## 話題提供②

### 「医薬品産業における諸制度と知的財産戦略」

(㊟、S60年卒) 内山 務

医薬品開発に関連した諸制度のなかで特許制度と関連するものについて、日米欧の制度比較を中心に紹介すると共に、医療現場のニーズや患者の負担軽減を満たす様々な工夫や改良がされた医薬品に関連する発明の、知的財産上の扱いについても紹介する。

尚、この話題提供は、演者の所属する企業および特定の団体の見解を示すものではない。

また、本話題提供は、2012年度日本知的財産協会医薬バイオ委員会の特別WGの活動を基にしたものである。

#### 1. 医薬品開発における諸制度

新薬開発において医薬品の有効成分の候補となる新規化合物が見出されてから新薬として上市されるまでには長い年月と多額の研究開発費(投資)が必要となる。したがって、新薬を継続的に提供することにより患者やその家族に貢献するためには、新薬を上市して利益を得ることによって研究開発投資を回収し、新たな新薬の研究開発のために再投資するというサイクルを適切に回すことが必要となる。

しかし、新薬の有効成分候補として合成された化合物のうち、新薬として世に出るもの

は非常に少なく、何万分の一という非常に低い確率である。さらに上市された新薬のうち上記サイクルに寄与できるものの確率も高くはない。

これらのことから、新薬開発のためのインセンティブを担保し上記サイクルを回すことが重要となる。

一方、新薬開発投資のための適切な利益が得られた医薬品については、安価な後発医薬品を提供することも国民の福祉経済の観点から重要視されている。

これらのことを鑑みて、新薬の創出と後発医薬品の普及の両立を図るため、産業政策上の観点から種々の制度が設けられている。知的財産に関連するものを中心として、以下の各種制度のうちのいくつかについて簡単に紹介する。

- 1) 特許権存続期間延長・補足保護証明(SPC)
- 2) 再審査制度・データ保護制度
- 3) 特許権の効力に関する試験研究の例外規定
- 4) 後発医薬品承認前の事前調整
- 5) 虫食い申請
- 6) 米国ANDA制度
- 7) オートライズド・ジェネリック薬
- 8) 特許発明に対する強制実施権
- 9) バイオ・シミラー

## 2. 医療ニーズに基づいた新薬開発とそれに関連する知的財産の保護

上市された後も、医療ニーズを充足させ、患者が薬剤を服用する際の負担を軽減するなどの目的で、医薬品について種々の点で改良がなされることがある。

そのような目的に合致するような改良発明を適切に知的財産権として保護することも上記サイクルを回すために必要となる。知的財産戦略としての観点からそのいくつかを紹介する。

- 1) 剤形追加
- 2) 医薬品の組合せ・配合剤
- 3) 効能追加
- 4) 光学異性体
- 5) 塩・結晶形
- 6) 医薬品の製造方法

以上

## 故郷の山々

(④、S34年卒) 五十嵐 俊 二

私達同窓生にとって越中の空に聳える立山連峰は故郷の山々です。私は佐々成政の埋蔵金伝説で名高い歙崎山の麓に生まれ、育ちました。「大山村」と称し、小さな集落の集まり(世帯数高々200位)ですが、薬師岳をもそっくり抱え込む文字通りの広大な山村でした。後に町村合併で「大山町」となり、さらに富山市となりましたが、今も実家の背戸に熊が出没するそうです。

威風堂々とした歙崎山と右後ろに控える端正な薬師岳の雄姿を、子供の頃からよく絵に描きました。その作品が、北日本新聞の正月の展覧会に入賞し、絵描きになることを夢見ましたが、子供心にも「貧乏絵描き」になってはいけないと諦めました。

高校、大学時代、さらにエーザイの研究所に勤務してからも、細々ながら、油絵を描いていました。1年半のドイツ留学の時は、車のトランクに常時道具を乗せて、異国情緒のスケッチに夢中でした。

しかし、30代に入ってから仕事が忙しくなり、退職するまで絵からピタリと遠ざかりましたが、富山に帰ると、山に向かって「いずれ時間を作って絵に描くぞ!」と誓い続けました。

63歳でエーザイの顧問、業界、学会の役職を辞し、油彩制作に精進いたしました。早速、頻りに富山に出かけ、山小屋に泊まって故郷の山々のスケッチに取り組みました。富山高校時代の恩師であった東一雄画伯のご存命中は、しばしばご自宅に作品を運び、助言を頂戴いたしました。

添付の絵は尖山(500m)の頂上からの遠望「残雪の立山」、F50です。左側の称名川と右端の常願寺川に挟まれて、左下隅の美女平、称名の滝脇の弘法、弥陀ヶ原、天狗平と続き、中央左に立山が聳えています。室堂や地獄谷は天狗山の裏です。左の尾根は大日岳に続き、右上の国見岳、浄土山、獅子岳の下には立山カルデラの跡が広がっています。1858年(安政4年)、常願寺川水源が大地震で崩れた鳶山により、せき止められてカルデラを形成し、豪雨で決壊、常願寺川からあふれ出た大量の

土石流が広く越中平野に大きな被害をもたらした歴史を思い起こさせます。一枚の絵を描く中で、いろんな思い出が止め処も無くあふれ出るのは故郷の山々だからです。

剣岳は絵描きにとっても素晴らしい山です。越中平野のどこから眺めても、特に夕焼けの赤い剣が絵になります。早月川に浮かぶ尾根、別山や剣沢からの剣岳、奥大日岳の方から見た東大谷、仙人池からの八ツ峰など、その雄姿は描き尽せない。

故郷の山々は私達の自慢であり、私の第2の人生を切り開く宝刀です。



## 上州は遺跡で有名

(㉖、S45年卒) 保坂公平

群馬県・上州は四地域（北毛・東毛・中毛・西毛）に分かれています。「かかあ天下と空っ風」が上州のイメージですが、県内に遺跡が多く発掘されている事をご存じですか？戦前の考古学者は、発掘中に赤土（関東ローム層）が出るとそれ以上掘りませんでした。赤土の上にある縄文時代（新石器時代）から日本人が出現したと信じていたからです。しかし、敗戦直後の昭和21年、相沢忠洋はみどり市笠懸町で露出していた赤土の下から石器を発見し、日本にも縄文以前の旧石器時代からヒトが住んでいた事を明らかにしました。これが、東毛の岩宿遺跡の発見です。県内では、現在まで60以上の遺跡が発見されています。

私が住んでいる北毛の渋川は、県中央部に位置し、赤城山・榛名山に挟まれています。渋川市では、八木沢清水遺跡（縄文時代）、黒井峰遺跡（古墳時代）、中筋遺跡（古墳時代）等が知られていましたが、私は全く興味を持

っていませんでした。ところが、昨年暮れの12月11日の上毛新聞の一面に、「国内初 鎧着た人骨」という大見出しの金井東裏遺跡における発見が掲載されました。この遺跡が我が家のすぐ近くにあった縁で、その日から私は、俄か考古学者に変身しました。榛名山の北東に位置する縄文時代～中近世の遺跡として、3か月前から火山灰（榛名山は6世紀に2回の大噴火）に埋もれた様々な遺構が掘り出されていました。胴の部分に鎧を着けた男性の人骨は、榛名山に向かってうつぶせに倒れた状態で、また近くから別の鎧、20本以上の矢尻と乳児の頭骨も発見されました。遺跡の調査担当の群馬県埋蔵文化調査事業団は、大人の骨について「6世紀初頭、榛名山の噴火を鎮める儀式中に火砕流で被災した首長」とする説を唱え、更に「昼間でも真っ暗になるほどの噴火で、乳児と一緒に火砕流に巻き込まれた」と見学に来た市民に説明しています。渋川と榛名をイタリアのポンペイとベスピオに、それぞれ置き換えて見ると世界の歴史が重なって来ませんか？詳細は<http://www.gunmaibun.org/remain/guide/index.html>をご覧ください。

私も今年3月をもって、群馬大学医学部の教官を定年退職します。在任中、私は常に最新知識を必要とする分子生物学を専門にしていました。定年後の私は、過去へと遡る古い知識が必要な学問に新たなロマンを展開させたいと願っています。

## 製薬協での5年間を回顧する

(㉗、S46年卒) 石井誠司

製薬企業を38年勤務した後、日本製薬工業協会（製薬協）に5年間お世話になり、本年1月末に退職しました。業界全体を俯瞰するポジションでの毎日の業務内容は、これまで一企業の社員の立場から医薬品に関わってきたのとは違った刺激的かつ魅力的なものでした。

製薬産業は、新薬を開発・創出することにより、疾病を克服、健康寿命を延ばし健康で安心な社会へ貢献し、科学技術の発展に寄与しています。しかしながら、一つの新薬の開発には10年～15年もの長い年月がかかるう

え、新薬成功率は約3万分の一ともいわれており、しかも数百億円から1,000億円もの膨大な研究開発費が必要となっていて、ますます新薬開発には困難さが増しているのが現状です。

このような現状の中、製薬協は、諸課題の解決のため、政府・行政等へ多くの提言を行ってきています。私が在職中の5年の間でも製薬業界をとりまく、色んな出来事がありました。例えば、2008年から2009年に新型インフルエンザが世界的に流行した際は、我が国のワクチン行政の脆弱さ、ワクチン確保の未整備が浮きぼりになりました。政府に対し、ワクチン事業に対する支援を要請し、どうにか体制が整うところまで来たところです。また、3年前には、戦後続いた自民政権から民主党政権への歴史的な政権交代があり、業界と政府・行政との連携の仕方にも大きな変化がありました。新政権において新たに策定された「医療イノベーション5か年戦略」に対しても、製薬業界の要望として、医療イノベーション政策の「司令塔機能」の強化や、ライフサイエンス関連予算の一本化と強化、研究開発を促進する税制の維持・強化、薬価関連では、試行的に導入された新薬創出・適応外薬解消等促進加算等を製薬協から提言してきました。

私が関わってきた業務の中で、印象深い出来事が二つあります。そのひとつは、2011年3月11日の東日本大震災時の被災地への緊急医薬品の提供と原発事故に伴う節電対応です。平時においても、医療を必要とされる方々に必要な医薬品をお届けすることは、製薬企業の使命ですが、それは未曾有の災害時であっても何ら変わることはありません。震災直後には、製薬協内に災害対策本部を設置し、5月連休明けまで毎日、24時間体制で、被災地の医療用医薬品の不足に対する対応と安定供給の遂行を行いました。最初に手掛けたことは、日本医師会医療チームの現地入りにあわせ、会員会社へ支援医薬品提供を要請することでした。その日のうちに10トントラック一台分の医薬品の提供があり、米軍横田基地より、ジェット機にて、仙台空港、花巻空港に輸送できました。同時に、厚生労働省からの要請をうけ、宮城県、福島県、岩手県の3県に設置された集積所に国土交通省より手配

していただいたトラックにて、10トントラック7台分の医薬品を輸送しました。その後も、医薬品が被災地に安定的に届くよう最大限の努力を図ってきました。

また、福島原発事故に伴う電力不足対応のための計画停電計画は、医薬品業界にも極めて大きな影響を及ぼしました。注射薬、輸液などの無菌製剤を作るには製造工程を無菌状態に維持するために、少なくとも48時間は継続して電力を使用する必要があります。途中で停電になったら作りかけの製剤は全て破棄となることから、製薬企業にとって計画停電は死活問題です。影響を受ける工場・研究所等の調査を迅速かつ緊張感をもって対応したことが思い出されます。その結果、製薬産業では、申請に基づき緩和措置が講じられました。

もうひとつの印象深い出来事は、昨年10月にノーベル医学生理学賞を受賞された京都大学山中伸哉先生を巡るエピソードです。製薬協では、例年、11月から12月にかけて、国会議員、行政、関係団体、患者会、オピニオンリーダー、報道関係者など多数の出席のもと「製薬協フォーラム」を開催しています。2年前の製薬協フォーラムの講演を山中先生にお願いすることになり、フォーラム事務局の責任者として交渉を開始し、運良く日程調整が出来、先生に快くお引き受けいただくことができました。ところが開催日の3ヶ月前頃から、新聞、週刊誌上で今年のノーベル賞候補として山中先生の名前があがってきたのです。もしも受賞された場合、ストックホルムでの授賞式とフォーラムの日程がほとんど重なり、先生の講演が危ぶまれることとなります。事務局責任者としての気持ちと、先生に受賞して頂きたい気持ちとが複雑に入り混じり、発表の日を待っていたことを思い出します。幸か不幸か(?)、その年には受賞されず、「iPS細胞研究の進展」というテーマで予定通り講演して頂くことができました。当日の講演では、研究の最前線を分かりやすく解説して頂きましたが、iPS細胞を利用した治療が実現する前に亡くなられた難病の患者さんのお話に入った場面では、「患者の治療に生かしてこそ研究が生きる思いを新たにしたい」と絞り出すような声で涙ながらに話をされ、会場全体がシーンと静まり返りました。その後、「近

ごろ涙腺が緩くなって」との先生の一言で、静まりかえった聴衆の緊張も少しほぐれた空気になったことが印象的でした。

製薬産業に対しては、国民からは、産業の社会的必要性や技術力、新薬の研究開発への大きな期待があります。それに応えるためにも製薬協は業界の基幹団体として、国民の健康に寄与するための更なる取り組みが必要であり、くすりや製薬産業に対する理解を更に深めていく必要があると思います。

私自身も製薬企業、団体に身を置いたペーパー薬剤師の立場から、今後、何らかの社会への貢献ができればと思っているところです。

## “薬大6年制”に思う

(㊟、S47年卒) 白 瀧 義 明

薬大薬剤師養成コースが6年制に移行して7年が過ぎようとしています。小生は昭和43年4月、五福にキャンパスがあった頃、同級生100人と共に入学し学園紛争を経験致しました。生薬学教室配属で森田直賢先生のご指導のもと、修士課程(生薬学教室)を修了した後、開設間もない城西大学薬学部助手として赴任、以来39年、埼玉の地で今日を迎えております。薬剤師養成コースが6年制に移行したのを機会に薬学部について考えてみたいと思います。4年制から6年制への移行というのは、1874年(明治7年)、我が国の大学における薬学教育の始まりとされる大学東校に製薬学科が開設されて以来の大改革です。ちなみに、富山大学薬学部は1893年(明治26年)に設立された共立富山薬学校を起源とし、今年が創立120周年の節目にあたります。長い間、我が国の薬学教育は、物質中心の医薬品を創るという研究主体の薬学教育でした。それが、医療人としての薬剤師を養成する薬学教育へと変化してきました。

大学の大きな使命は研究と教育です。薬剤師を養成する薬学教育だけでなく研究も行わなければなりません。薬学部の先生方は真面目な方が多く、両方を完璧にやろうとされますが、両方をこなすには環境整備が必要です。特に私立大学では教員1人に対する学生数は20人以上と多く、教員が多忙になるのは当然

のことと言えます。対応策は学生数を減らすか、教員を増やすかです。しかし、大学側としては6年制移行に伴い、巨額の投資を行ったので定員削減は難しく教員数を増やすのも費用がかかり実現困難な状況です。さらに、研究面では、5年生は約半年実務実習に出てしまい6年生の後半は国家試験の勉強に費やすので実験どころではなく実務実習の3つの期間の割り振りや就活のために卒業研究に集中出来る期間はかなり制約を受けるという事実です。加えて、臨床系教員は増えたが基礎系教員は増えていない、特に創薬研究に関連した基礎系教員は、研究に集中出来ないという声が高まっています。であれば、創薬研究は4年制+大学院博士前期課程(修士)2年・後期課程(博士)3年で行い、薬剤師養成は6年制+大学院博士課程4年で行えばよい、という理屈になります。4年制と6年制では同じ教科目でも中身は異なって当然と思われる。たとえば、生薬学でも4年制+大学院博士前期課程(修士)2年では、生薬の成分や生合成経路、構造決定法などの医薬品開発に重点を置いた教育、6年制では生薬の基原植物や漢方でよく使われる和漢生薬の薬効等に重点を置いた教育がなされるべきだと思います。現在のコアカリキュラムでは項目が多過ぎて、とても時間内に終了しません。学生も消化不良を起し何が何だかわからないまま、生薬学を放棄してしまうという例が少なくありません。

もう一つの問題は特に私立薬科大学の場合、「学生の質の保証」です。定員を減らせないとすると、どうしても質は下がります。これを如何にして「社会で役立つ有能な薬剤師」レベルまで引き上げるかが重要な問題となり、中でも特に、我が国の将来を左右する創薬研究の分野で期待される4年制の学生の質を如何に引き上げるかが重要なポイントになります。せっかく、多くの先人の努力の末、欧米各国と同様に6年制に移行し、外形はできたのですからこれからは方法論の問題になります。社会で役立つ有能な人材を如何にすれば養成できるか、若者の二人に一人が大学生という今の時代にマッチしたアイデアをどのように出すかでこれからの薬学部の将来が決まります。特に大学の先生方や薬剤師の先生方はこの問題の解決に知恵を絞って欲しい

と思います。

## 坂東生誕44周年にあたり

(㊟、H3年卒) 坂東裕志

私は富山で生まれ育ち、そのままあまり深い考えもないまま、富山医科薬科大学に入学した。深い考えもなく入った大学だったが、振り返ってみれば私の人生の中で最も充実し、楽しかった時を過ごしていたと思う。ただ何も考えずに生きていたからかもしれない。

バブルが崩壊したころ、楽しかった学生生活を終え私は富山化学工業に入社した。入社当初は富山の研究所で有機合成での創薬研究にいそしんでいたが、入社4年目から開発マンとして東京生活を送ることになった。それから仕事も私生活もそこそこ順調に進み3人の子宝にも恵まれた。

しかし今から3年ほど前に、諸事情により転職し、現在の職場である日医工で働いている次第である。

日医工に入った目的の一つとしては、故郷の富山に戻ることであった。ほぼ東京の生活しかしたことのない私の子供たち(女3人)は、当時泣いて嫌がった。

「何で、富山なんかに行かなきゃいけないんだよ～～。わーん。」

わが故郷をそんなに嫌がられるのは、非常に残念であるが、親しかった友達と、もう会えないなどと思うと彼女らの東京を離れたくないのも分かる。

子供たちにそんな思いをさせてまで、2010年に富山に家族全員で移ったわけだが、今私はこの「遠久朶」の原稿を書いている。ということは、今私は首都圏に私が住んでいるということである。この原稿を書いているそばに私の家族はいない。今頃、私のいない家で楽しそうにテレビなんかを見ていることであろう。私のことなど忘れて・・・。

サラリーマンなど寂しいものである。

まあ愚痴はこのくらいにしておいて、私が東京に戻ってきたのは、私の過去の臨床開発の経験を買われてのものである。臨床開発の業務は自分たちの手で薬を新たに患者さんに提供できるという非常に高いモチベーション

を持てるものの、業務量はもちろんのこと、未知の部分の開拓、時間との闘い、様々な人たち(当局、医療機関、関連会社、関連部署、自部署)との調整など肉体的にも精神的にもキツイことが多い。実際、ヘトヘトな状況でこれを書いている。

かといって苦しいことばかりしては身が持たないので、それなりに遊んではいるのである。というか無理してでもこれらの時間を作っている。お酒は大好き。異性との交流も好きである。またスキーやゴルフも好きだし、読書も好きである。家族にも会いたいから、土日に富山にも帰ることも多い。

仕事もしなければいけないのに、他にしたいことも多い。もしかしたら私はその遊びが多すぎるからヘトヘトなのかもしれない。

これでは学生の時に時間を忘れて何でもしていたころと変わらない。あのころはとても楽しかった。それで忙しくても寝なくても体ももった。でもあれから20年以上の時を経ている。私の体は完全にオッサンになってしまっている。それなのにこんなに無理している。

この原稿が載るころの、私の体は大丈夫でしょうか？

誰にでもある、私の普通の日常を書いてきましたが、今後も自分の人生なんだから、自分の思うようにエンジョイしていきます。皆さんも素敵な人生を送りましょう。

## 母校に感謝。世代を超えた繋がりを薬窓会で！

(㊟、H9年卒) 宅和知文

6年を過ごした富山を離れて今年で早くも15年目になります。今でも拙妻の故郷でもある富山には年に2、3度帰省致しますが、最近ですと海王丸パークと越ノ潟を結ぶ新湊大橋が開通し、様変わりする部分もあれば、20年前に当時の富山医科薬科大学を受験に訪れた際にあまりの雄大さに感動を覚えた立山連峰は当時のままに、山アリ、海アリの自然豊かな土地柄である事を思い出させてくれます。新湊大橋はご覧になりましたでしょうか？義母は運悪く強風で大きく揺れる中を渡ったらしく、風の強い日には絶対に利用しないのだそうです(笑)。現在対策工事が進んで



おり、終わったら徒歩でも渡れるとの事ですのでご安心を。海拔50mからの水平線と立山連峰の眺望のコラボを今から楽しみにしております。さて、この一年を振り返った時に一番の収穫であったのは紛れもなく葉窓会首都圏支部の方々との出会いでありました。現在アステラス製薬にて茨城県つくばの地で創薬業務に携わっており、社内では母校出身の先輩方をはじめとする同窓の集いはありましたが、富山大学葉窓会首都圏支部の活動は存じ上げておりませんでした。そんな中、今年度は大先輩である弊社竹内さんの呼びかけもあり昨年6月30日の首都圏支部総会にアステラスから12名で集結する事ができました。会場では卒業以来となる方との再会もあり、懐かしい思い出や近況を語る時間は至福のひとつとなりました。また、総会では普段触れることの無い母校の近況、昨年話題提供ではエーザイの村上さんから粘り強い研究から見出された新薬の成功体験を、伊藤忠商事の平岡さんから製薬企業とはまた違った視点での医薬ビジネスのお話を拝聴し、卒業後の皆様の活躍の幅の広さに感銘いたしました。さて、この様な大きな集まりとは別に、昨年は更にコアな集まり？である、「三金会」にも参加させて頂きました。(会の詳細は昨年の首都圏遠久栄の井本様の寄稿を参照下さい) 最初はあまりの大先輩方の中で場違いか？と思いきや、同窓と言うだけで初対面とは思えない暖かい雰囲気歓迎して頂きました。一言に薬学とは言っても様々なキャリアをお持ちの諸先輩方から何うお話は大変興味深く、社内でのみの懇親会では聞けない話題など大変勉強になる事も多いです。些か遠方で毎月とはいきませんが定期的に参加させて頂きたい、その様な会なのです。昨年夏には三金会のご縁からテニスを趣味にされる方々につくばまでお越しただいての「テニスの会」を開催出来ました。私自身、テニスは初心者もよいところで、ダブルスで組んで頂いた方には大変申し訳なかったですが、午前は公園のテニ場で、お昼を近くの蕎麦屋で頂いた後、午後のご好意でエーザイ株式会社のコートをお借りしてのテニス三昧でした。また夜は居酒屋での懇親会で締めくくり、丸一日遊び尽くしました。お越し頂いた皆様、有難うございました。最後に、この様な素晴らしい交流の機

会を持たたのも母校と首都圏葉窓会の活動があつての事です。感謝すると共に益々発展する事、参加者が増えることを願って止みません。皆様の知り合いでこの様な素晴らしい会の存在を知らない方がいらっしゃいましたら、是非一声おかけ頂ければ幸いです。



## 野菜作りませんか？

(◎、H15年卒) 上野陽子

私の大学時代は野菜の直売所によく通っていました。そこは富山医科薬科大学から坂を下りて、私が合計9年間を過ごした‘グランドハイツ日本海’と‘オリジン大樹’の先のビニールハウスにあり、新鮮で美味しく、さらに量が多いので、学生の味方でした。たとえば大根2本が100円くらいだったりします！スーパーでは切り落とされている大根の葉っぱも新鮮なので美味しく頂いていました。寒い富山で留学生の方々や研究室の台所で大量の大根、白菜で作った鍋をみんなで囲んでいました。また別の日の昼食や夜食には週末に大量に作った大根やゴボウの煮物を研究室で食べていました。この時食べた新鮮な野菜の味は今でも忘れられません。

この直売所の味が忘れられなくて、直売所のように新鮮な野菜が食べたくて、社会人になってからは念願だった家庭菜園を始めました。手始めとしてトマトやカブを作り始めました。しかし、この当時住んでいたマンションは日当たりが悪く野菜の栽培は困難でした。そこで会社の同僚と農園を借りることにしました。菜園初心者でもトマト、ゴーヤ、ジャガイモは大量に収穫できましたが、収穫が少なくなってしまったニンジンや、毛虫に悩まされた作物もありました。それでも新鮮な野菜は味が濃厚で美味しく直売所の味を

思い出しました。その中でも、サツマイモをみんなで収穫し、その後農園の近くで焼いた焼き芋は甘く美味しかったです。

昨年からは個人で30m<sup>2</sup>の広い農園を借りています。こんなに広い農園は初めてなので、一年の作物の予定表を作成して、計画的に野菜を育てています。昨年は初めてミニかぼちゃの空中栽培に挑戦しました。アブラムシやうどんこ病に悩まされましたが、つるを支柱に留める作業を繰り返した結果みごとかぼちゃが実りました。収穫時期が分かりませんでしたが、トライアンドエラーを繰り返すうちにかぼちゃの収穫時期を少しずつ見極められるようになりました。来年は初めから美味しいカボチャが収穫できる予定です！！

同じ貸農園には東京から来られる方、定年後の方など様々なバックグラウンドを持った方がいます。貸農園で作物を作ることで、作物の交換はもちろん、人生経験を聞く機会にもつながっています。三金会で教えていただいた、人とのつながりの重要性の教えを実践すべく、これからはもっともっと周りの方とコミュニケーションをとりたいと考えています。今年も3月になるのでそろそろ農園の時期です。完熟した採れたて野菜は格別に美味しいです。皆さんも始めてみてはいかがでしょうか？

## 白回卒生の話

(㊟、H24年卒) 五月女 達也

まもなく今年も冬を終え、春を迎えようとしています。昨今の頃、私は、富山の厳しい寒さと戦いながら、国家試験を乗り越え、卒業旅行、卒業式と大学生活ラストスパートを走っていました。あまりに走りすぎて、そのまま社会人のスタートを切ってしまったことは、ここだけの話、反省していますが…。忙しい中でも、社会人になることへの不安と期待で、とても複雑な気持ちを抱えていました。人生に何度経験できるか分からないその気持ちが、今では懐かしく、貴重に感じます。そんな節目の年から、早1年が経とうとしています。

私は、大学卒業後、某製薬メーカー（K社）で医療用医薬品の開発に携わっています。

日々新たな業務に出会い、社会人は一生勉強だと痛感させられていますが、大学で学んできた多くのことをベースに働くことができている、この職種を選んで良かったと感じています。

社会人一年目、私にとって大きな出来事は、Iさんとの出会いです。IさんはK社の開発職唯一、同じ大学出身の先輩なのですが、そのIさんが部長を務める部署に配属されるといふなんとも偶然の出会いでした。K社を選んだことに大きな縁を感じた瞬間です。このIさんからの誘いが、薬窓会首都圏支部総会に参加するきっかけです。今では、あの時参加して本当に良かったと思っています。Iさん、本当にありがとうございます！

その総会に参加した感想を少し…。総会参加者は、薬剤師から研究者等、様々な領域で活躍されている方ばかりで、講演はもちろんのこと、懇親会での交流を通し、多くのことを学ばせて頂きました（ステージでの挨拶までさせて頂き、本当にありがとうございました）。普段働いているだけでは、関わることのできない方と繋がり、情報交換できるのも魅力で、とても刺激を受けることができました。ただ、私に近い世代の方はほとんどおられなかったのが残念でした。

このような場はなかなか無いと思うので、人脈の幅を広げる、あるいは同窓会感覚でも、是非参加をお勧めします（特に若い世代の方、一緒に行きましょう）。今後、少しでも若い世代を賑やかにできたらなとも密かに感じていますので。

言い忘れましたが、私は99回卒生にあたります（タイトルは100（百）－1（一）で白回卒生としてみました）。なぜあと一年後に卒業しなかったのか。卒業後、後悔している点です。冗談はさておき、薬窓会首都圏支部の皆様からのご期待に添えますよう、今年度の総会には、羨ましい記念すべき100回卒生を1人でも多くお連れできるよう努力します。2013年度も慌しくなる嬉しい予感がしてきました。今後とも、よろしくお祈りします。

## ゴルフクラブ便り

今や、葉窓会唯一の同好会となってしまった「ゴルフ同好会」です。

年2回のゴルフコンペを実施してきて、これまでナント！80回（40年間）を超える長期にわたって活動を重ねてきています。

中学生と高校生の野球部員人口がサッカー部に抜かれたのはウン十年も前のことでしたが、ゴルフも、サラリーマンの“運動を兼ねた趣味”の上位の座から滑り落ちて久しく……“接待ゴルフ”などが若い世代に敬遠されたという説もあります……。

さてわがゴルフ同好会も、創立以来の中心メンバー（30回台後半～40回台前半卒業の会員）が高齢や体調不良などを理由に次々とリタイアされ、「将来のお手本」が消えてしまうという寂しさを実感させられています。『80歳ぐらまでは、ボールを追いながらフェアウェイを歩けると幸せだねえ』という懇親会席上での“会員同士の合言葉？”が懐かしく思い起こされます。最近やっと、50回台後半の卒業世代が定年退職を迎えて、石井誠司さん、藤村元成さん（ともに58回）が新たに当同好会に加入してくれる状況が生まれてきて、事務局（全員50回台）としては前途にほんのりと灯りを見出してちょっと安堵できたわけです。何ととっても、会員最若手が59回卒業の村上学さんですからね。

<第81回コンペ戦記>（2012年4月13日。晴れ。新東京GC：茨城県坂東市）

晴れ女と晴れ男が揃っている葉窓会ゴルフコンペは、いつも「快晴」です。今回も参加者はもちろん、事務局もまったくお天気の心配をすることなくゴルフ場に向かいました。もっとも、天気予報も“晴れ”でしたが。本日の参加者は女性3名（大澤さん、川村さん、布施さん…いずれも相当な“晴れ女”です！）を含む17名でした。

坂東市（ばんどうし）といっても、ほとんどの方はご存じないかもしれませんが、平成17年3月の大合併で旧岩井（いわい）市と猿島（さしま）郡猿島町が合併して茨城県西端に誕生した新しい市です。市内を利根川（坂

東太郎の異名でも知られる）が流れていることから命名されたそうです。つくばエクスプレス「守谷」駅からクラブの送迎バスがあり、電車組は守谷駅に集合してクラブに向かいました。茨城県といっても、都心から車で約1時間で行ける立地で、自動車組も問題なく到着できました。

このコースは、ある会員から紹介と提案があって選びましたが、その提案理由は、「カートフェアウェイに乗り入れ可能だから」ということでした。「葉窓会」ゴルフクラブは長い歴史の中で、幾多の名門コースで開催してきたわけですが、事務局としては、「ついに、コース選びの選択肢に『カート乗り入れ』を加えることになったか」と、一抹の不安も感じさせられた次第でした。もっとも、わが国でも有名なリゾート地にあるゴルフ場などには、さまざまな客のニーズに応えるため、「カート乗り入れ可」とするところもありますし、さらに、欧米のゴルフ場では、かなり一般に見られることでもあります……フェアウェイの芝の丈夫さが違うこともあるのでしょうか？ そういえば、仙台近郊にも、クラブの許可を得れば乗り入れ可とするゴルフ場がありましたっけ。

ただし、客が多くなるとどうしてもカートの車輪で芝が痛めつけられるため、フェアウェイの状態を最高に保つのは難しくなるようです。

紹介して下さった会員の情報からも、ある程度は予想していましたが、やはり、フェアウェイはだいぶ荒れていました。何よりも、コース自体の「大改造中」で、コースのあちこちで大がかりな土木工事も進行していました。

また、乗用カートは基本的に二人乗りで、準備できた組からどンドンスタートしたためもあって、最後尾がスタートホールに到着したときには、少し前の組の姿さえ見えなくなってしまふほどでした。

プロゴルファーは、さまざまなボールのシチュエーションに対応するため、芝の生えていない地面からも正確に打てるように練習するらしいですが、アマチュアの私たちには、少しでも荒れ気味のフェアウェイからのショットは難しいものとなりました。

結果はやはり「上手が勝つ」ということに

終わりましたね。

優勝はゴルフ歴が長く、全国各地のゴルフ場でプレーしたという経験豊富な伊勢谷さん(47回)でした。準優勝は久しぶり(失礼)に村上さん(53回)、3位南さん(53回)。布施さん(55回)も同ネットでしたが、年長者上位の会規定により、南さんが3位でした。BBは珍しくも安宅さん(48回)、BMは川村博子さん(49回)でした。

<第82回コンペ戦記> (2012年10月11日：千葉県千葉国際CC)

強力な“晴れ女”の布施さんに、何とかお天気にもしてもらって、今回も晴天のうちに無事開催できました。朝は、電車がJR蘇我駅付近から送迎バスです。今回は総勢13名。最近ではもっとも参加者の少ないコンペになりました。ゴルフは4名1組でプレーしますから、13名だと、4組ギリギリ(第1組のみ4名で、残りの3組は3名ずつ)になります。ゴルフ場を予約するときには、大きな期待を込めて5組(20人分)を予約しますので、事務局としては、「参加」のハガキが返ってくるのを首を長くしながら待つこととなります。今回はまさに一喜一憂でした。財政的にも13名の参加者では苦しいものがありますので。

さらに、今回のコンペ会場は事務局を担当する柿崎のホームコースでもありました。知る人ぞ知る浅見緑蔵(あさみろくぞう)氏の設計になる、「自然の地形を生かした起伏に富んだ戦略的なよいコース」(多分到手前味噌ですが)、しかも計45ホール(桜アウト・イン、竹アウト・イン、松のそれぞれ9ホールが5コース)という規模の大きなゴルフ場です。小生など、メンバーになって数年の間は、たとえば「桜アウトコースの○番のロング」とか、「竹インの○番のショート」とかいわれても、どのホールだったか、すぐには思い浮かべられなかったほどです。メンバー同士で毎月プレーするようになって、やっとすべてのホールを思い浮かべられるようになりました。

さて、元々の地形のせいで、すべてのホールが「打ち下ろし」、「打ち上げ」になっています。乗用カートでプレーしますので、「それほど大変ではないつもりでしたが、終わってみれば、「いやあ柿崎さん、なかなかタフなコ

ースだったねえ」という声が多く寄せられました。コース選びに結構苦勞している事務局としては、同じゴルフ場でいくつもコースのあるゴルフ場は魅力があるのですが、今後検討の余地がありそうです。コースのせいで参加者が減ると、いちばん困ってしまいますので。

さて結果は、またもや「上手は強い」ことが証明されました。タフなコースを軽々と克服され、唯一87という好スコアをマークされた小国さん(47回)がBGも獲得して圧勝しました。準優勝は、これも千葉県各地をコンペで転戦している都築さん(56回)、3位が宮澤さん(50回)でした。BBはなんと事務局、しかも、メンバーコースである当ゴルフ場を会場に選んだ柿崎(55回)でした。事務局としての“接待疲れ”か?ということに。

(事務局：㊦、S43年卒 柿崎 直和)

## 100字通信

㊦、S38卒 宮澤 英雄

昨年、永年勤めたOTCの会社を退社しました。同社は、登録販売者だけで薬を扱って行くの方針に切り替えた為です。しかし、その後、彼等の資格の有効性について問題が発生し、多くの課題が残ります。

㊧、S15卒 岩崎 光一

90を過ぎると同窓生も少なくなってまいりますが、お陰様で元気しております。皆様にもよろしくお伝えください。平成25年2月吉日

㊨、S26卒 松井 信政

昨夏より川崎市内のケア付有料ホーム(クラーチ溝の口)に入居し、快適にすごしています。会員のご健勝と会の隆昌を祈念申し上げます。

㊩、S15卒 神山 元治

平成24年5月29日94歳でなくなりました。永い間ありがとうございました。(ご家族様より)

㊪、S25卒 林 昌宏

2011年4月死去致しました。生前の御厚情、心よりお礼申し上げます。(ご家族様より)

④⑨、S32卒 高木 良造  
港区にある調剤薬局の仕事を69歳の時に頼まれ、週3日の勤務で良ければと引き受けたが、今年で11年になった。また、港区薬剤師会の副会長職も3月で任期が終わるので、これを機に、80歳まで元気に働けたことに感謝し、仕事を辞めることにした。

④⑩、S37卒 土方 久家  
半世紀前富山大陸上部での北陸4大学陸上以来の公式競技に、昨年は12/1東京マスターズでハーフマラソンに参加2時間7分6秒、12/9ホノルルマラソンに参加5時間30分55秒にて完走。本年も東京マスターズにて競技予定です。

④⑪、S34卒 五十嵐俊二  
油彩個展開催のご案内

私は久しぶりに、多分、今生の最後に、銀座で、「越中富山、故郷の山々」と題し、大小20余点の油彩を展示します。特に同郷の方々に見て頂きたく、ご案内いたします。時：8月18-24日、場所：東京交通会館（有楽町）2Fギャラリー

④⑫、S33卒 橋浦 十八  
2012年7月クロアチア観光アドリア海の真珠ドヴロヴニクは重厚な城壁の街で絵になる風景。今年4月トルコの Cappadocia 中心に旅してきます。体が動くうちに海外への考えで年1回のペースで旅しております。

④⑬、S29卒 基常 弘晃  
調剤を通じ患者さんの相談に次の言葉を忘れずに努めています。「診療時は患者の顔を見て欲しい」（新聞投稿）。薬師寺学会特別講演「見視観」見る（外見）視る（触れて）観る（心で）多くの医師の話題になりました。

父、山下正男は2011年1月10日、96歳で死去いたしました。長い間のご連絡をありがとうございました。（長女 藤林順子様より）

旧職員（和漢研：生物試験） 渡辺 和夫  
昨年は参加させていただき、楽しい時を過ごすことができました。今回、都合で出席できません。山崎高應先生、木村正康先生、吉井英一先生、清水岑夫先生と、相次いで逝かれ、寂しくなりました。いずれも時を共有しました。

④⑭、S36卒 川上 惇  
5年ぶりに富山スキーマスターズ大会に出

場した。当日は快晴。牛岳温泉スキー場から立山連峰が美しく見られ、気持ちのよい滑走ができた。スキー終了後は山田温泉・玄猿楼に一泊し、疲れを癒し、酒と料理を楽しんだ。

④⑮、S42卒 竹内美千代  
昨年11月、私がNGO活動をしている国連女性機関トップのバチエレUN Women事務局長が来日。興味津々で横浜委員会の面々と歓迎レセプションのため、日本記者クラブへ初めて行ってきました。

## 平成24年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会  
平成24年度首都圏支部定期総会  
平成24年6月30日（土） 茗溪会館
2. 幹事会  
第1回幹事会：  
平成24年8月8日（水） 茗溪会館  
第2回幹事会：  
平成24年11月20日（火） 茗溪会館  
第3回幹事会：  
平成25年4月3日（水） 茗溪会館
3. 平成25年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付  
平成25年1月28日発送
4. その他  
薬多津三金会（毎月第三金曜日開催）  
於：多津よし（東池袋）  
五福会 5月16日（水）、11月8日（木）  
於：白山富山会館

## 平成24年度 首都圏支部役員 （平成25年3月末現在）

支部長：S48年卒 中西 憲幸  
副支部長：S46年卒 加藤 健二  
H8年卒 東（葛西） 美恵  
幹事長：S54年卒 道見 茂樹  
副幹事長：S43年卒 柿崎 直和

## 平成25年度 首都圏支部役員

支部長 : S48年卒 中西 憲幸  
副支部長 : S46年卒 加藤 健二  
          H9年卒 平岡 良隆  
幹事長 : S54年卒 道見 茂樹  
副幹事長 : S43年卒 柿崎 直和

### 卒業記念謝恩会に出席して

3月22日(金) カナルパークホテルにて、薬窓会本部総会に引き続き夕刻から卒業生主催の卒業記念謝恩会が開催され、中西支部長とともに出席してきました。当日は暖かな日本晴れ、立山連峰の雄姿もくっきりと見え、卒業生のみなさんにとっては記憶に残る一日になったと思います。

私が参加した目的は、卒業記念謝恩会で首都圏に就職する卒業生に接触し、連絡先をゲットすることでした。個人情報保護法以来名簿も作製しづらくなったのか、新卒者の首都圏転入先を入手する手だてがない状態でした。そのような中、昨年、きんき支部の皆さんが謝恩会に出席して卒業生とコンタクトを取り、その結果支部総会に5名の新卒者が参

加したという話しをお聞きし、これはgood idea! 首都圏もマネしようということになった次第です。

謝恩会受付の横に首都圏ときんき支部の机を置いていただき、本部遠久架に掲載されていた首都圏に就職する予定の卒業生が来たら受付からこちらにまわしてもらい、そこで連絡先を聞くことができました。病院薬剤部準教授の加藤先生の他、多くの先生方にお世話になり、お陰様で10名の新卒者の連絡先を聞くことができました。

新卒者の方々とは、その後の謝恩会会場内でも学生時代の思い出、社会人としての新生活への期待と希望、不安感など色々な話しをすることができました。自分の卒業時と比べると、随分まじめにものごとを考えるなあという印象です(私は全てケ・セラ・セラでした)。

首都圏支部総会には、新卒者の皆さんが来てくれることは間違いないと思います。楽しみにしててください。三浦君、嶋田君、丸山君、中野君、大野君、山根君、江口君、鈴木君、草川君、大城さん、首都圏支部総会には是非来てください。また、三金会にも!約束したように、初回はごちそうします。

(幹事長: ㊦、S54年卒 道見 茂樹)



## 平成24年度会計報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

| I. 収 入 の 部    |           | 単位 円      |
|---------------|-----------|-----------|
| 項 目           | 予 算       | 実 績       |
| 前年度繰越金 (普通預金) | 6,226,049 | 6,226,049 |
| 年 会 費         | 500,000   | 327,000   |
| 総 会 参 加 費     | 500,000   | 508,000   |
| 普 通 預 金 利 息   | 1,000     | 914       |
| 合 計           | 7,227,049 | 7,061,963 |

| II. 支 出 の 部   |           | 単位 円      |
|---------------|-----------|-----------|
| 項 目           | 予 算       | 実 績       |
| 総 会 費         | 500,000   | 500,981   |
| 会 合 費 (幹事会等)  | 100,000   | 76,693    |
| 交 際 費         | 10,000    | 3,265     |
| 事 務 通 信 費     | 300,000   | 181,490   |
| 同 好 会 補 助 費   | 20,000    | 40,000    |
| 会 報 発 行 費     | 550,000   | 509,545   |
| 出 張 費         | 60,000    | 85,000    |
| 事 務 局 費       | 30,000    | 9,694     |
| 次年度繰越金 (普通預金) | 5,657,049 | 5,655,295 |
| 合 計           | 7,227,049 | 7,061,963 |

## 平成25年度予算 (案)

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

| 収 入 の 部      |           | 支 出 の 部      |           |
|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 項 目          | 金 額       | 項 目          | 金 額       |
| 前年度繰越金(普通預金) | 5,655,295 | 総 会 費        | 500,000   |
| 年 会 費        | 500,000   | 会 合 費        | 120,000   |
| 総 会 参 加 費    | 500,000   | 交 際 費        | 10,000    |
| 普 通 預 金 利 息  | 1,000     | 事 務 通 信 費    | 200,000   |
|              |           | 同 好 会 補 助 費  | 40,000    |
|              |           | 会 報 発 行 費    | 300,000   |
|              |           | 出 張 費        | 85,000    |
|              |           | 事 務 局 費      | 20,000    |
|              |           | 次年度繰越金(普通預金) | 5,381,295 |
| 合 計          | 6,656,295 |              | 6,656,295 |

# 平成24年度 支部年会費納入者一覧

## (総計 278名)

※平成24年5月から平成25年3月  
までに年会費を納入された方の一覧  
です。

| 回  | 年号 | 年卒 | 氏名      | 回  | 年号 | 年卒 | 氏名    | 回  | 年号 | 年卒 | 氏名    |
|----|----|----|---------|----|----|----|-------|----|----|----|-------|
| 26 | 昭和 | 13 | 竹澤富三    | 43 | 昭和 | 31 | 久郷正孝  | 47 | 昭和 | 35 | 小国益男  |
| 28 | 昭和 | 15 | 岩崎光一    | 43 | 昭和 | 31 | 古徳 治  | 47 | 昭和 | 35 | 若林庸夫  |
| 28 | 昭和 | 15 | 須田民三    | 43 | 昭和 | 31 | 細 信彦  | 47 | 昭和 | 35 | 上村恵子  |
| 30 | 昭和 | 17 | 米田力次郎   | 43 | 昭和 | 31 | 山岸伸郎  | 47 | 昭和 | 35 | 須藤昌二  |
| 30 | 昭和 | 17 | 高山 薫    | 43 | 昭和 | 31 | 車田知之  | 47 | 昭和 | 35 | 倉石弘一  |
| 30 | 昭和 | 17 | 渡會春雄    | 43 | 昭和 | 31 | 本多 存  | 47 | 昭和 | 35 | 梅原 弘  |
| 33 | 昭和 | 19 | (故)濱田 孝 | 43 | 昭和 | 31 | 落合信雄  | 47 | 昭和 | 35 | 並木英明  |
| 33 | 昭和 | 19 | 岩崎 貢    | 43 | 昭和 | 31 | 脇田秀雄  | 47 | 昭和 | 35 | 伊勢谷篤弘 |
| 34 | 昭和 | 21 | 永井正之    | 44 | 昭和 | 32 | 永田邦夫  | 48 | 昭和 | 36 | 吉田誠一郎 |
| 34 | 昭和 | 21 | 織井文貞    | 44 | 昭和 | 32 | 紙谷得子  | 48 | 昭和 | 36 | 安宅久弥  |
| 35 | 昭和 | 22 | 山木 高    | 44 | 昭和 | 32 | 車田千秋  | 48 | 昭和 | 36 | 久保一夫  |
| 37 | 昭和 | 24 | 井上三郎    | 44 | 昭和 | 32 | 大村恭子  | 48 | 昭和 | 36 | 久保春子  |
| 37 | 昭和 | 24 | 斉藤正己    | 44 | 昭和 | 32 | 林 吉孝  | 48 | 昭和 | 36 | 熊木健治  |
| 37 | 昭和 | 24 | 水牧勝美    | 44 | 昭和 | 32 | 鈴木芳子  | 48 | 昭和 | 36 | 三浦 晋  |
| 37 | 昭和 | 24 | 秋元 昂    | 44 | 昭和 | 32 | 高瀬清孝  | 48 | 昭和 | 36 | 川上 惇  |
| 37 | 昭和 | 24 | 千葉繁治    | 44 | 昭和 | 32 | 高木良造  | 48 | 昭和 | 36 | 川上芳子  |
| 37 | 昭和 | 24 | 大和宗雄    | 44 | 昭和 | 32 | 岩崎 朗  | 48 | 昭和 | 36 | 船場定信  |
| 38 | 昭和 | 25 | 熊谷隆司    | 45 | 昭和 | 33 | 新森信正  | 48 | 昭和 | 36 | 村杉和子  |
| 38 | 昭和 | 25 | 上野 洵    | 45 | 昭和 | 33 | 橋浦十八  | 48 | 昭和 | 36 | 中嶋 啓  |
| 39 | 昭和 | 26 | 米丸洋子    | 45 | 昭和 | 33 | 佐藤 忠  | 48 | 昭和 | 36 | 定留温子  |
| 40 | 昭和 | 28 | 千原秀夫    | 45 | 昭和 | 33 | 佐藤池鶴子 | 48 | 昭和 | 36 | 樋口明彦  |
| 40 | 昭和 | 28 | 眞舩恒雄    | 45 | 昭和 | 33 | 児玉英篤  | 48 | 昭和 | 36 | 油木劭之  |
| 40 | 昭和 | 28 | 高橋重二    | 45 | 昭和 | 33 | 大郷利治  | 48 | 昭和 | 36 | 松繁克道  |
| 41 | 昭和 | 29 | 基常弘晃    | 46 | 昭和 | 34 | 結城澄子  | 49 | 昭和 | 37 | 加藤昭彦  |
| 41 | 昭和 | 29 | 志甫 正    | 46 | 昭和 | 34 | 川畑耕祐  | 49 | 昭和 | 37 | 見義治子  |
| 41 | 昭和 | 29 | 松田利子    | 46 | 昭和 | 34 | 中村恵子  | 49 | 昭和 | 37 | 三尾美和子 |
| 42 | 昭和 | 30 | 柳 文平    | 46 | 昭和 | 34 | 尾嶋司郎  | 49 | 昭和 | 37 | 小川信吾  |
| 42 | 昭和 | 30 | 久世啓吾    | 46 | 昭和 | 34 | 齊藤諒三  | 49 | 昭和 | 37 | 森本武男  |
| 42 | 昭和 | 30 | 荒川泰藏    | 46 | 昭和 | 34 | 五十嵐俊二 | 49 | 昭和 | 37 | 川村博子  |
| 42 | 昭和 | 30 | 佐藤正美    | 46 | 昭和 | 34 | 森 哲朗  | 49 | 昭和 | 37 | 土方久家  |
| 42 | 昭和 | 30 | 佐藤哲男    | 47 | 昭和 | 35 | 市中滋郎  | 49 | 昭和 | 37 | 半澤弥榮子 |
| 42 | 昭和 | 30 | 才川 勇    | 47 | 昭和 | 35 | 京泉清男  | 49 | 昭和 | 37 | 林 幸子  |
| 42 | 昭和 | 30 | 山上高德    | 47 | 昭和 | 35 | 古川貞子  | 49 | 昭和 | 37 | 鈴木国男  |
| 42 | 昭和 | 30 | 種谷 豊    | 47 | 昭和 | 35 | 室生知子  | 49 | 昭和 | 37 | 廣江光代  |
| 42 | 昭和 | 30 | 渡邊 静    | 47 | 昭和 | 35 | 安川正巳  | 49 | 昭和 | 37 | 吉谷 孝  |
| 43 | 昭和 | 31 | 上野謙爾    | 47 | 昭和 | 35 | 安川俣子  | 50 | 昭和 | 38 | 井田勝三  |
| 43 | 昭和 | 31 | 元田 修    | 47 | 昭和 | 35 | 関 誠   | 50 | 昭和 | 38 | 野口正喜  |



| 回  | 年号 | 年卒 | 氏名     | 回  | 年号 | 年卒 | 氏名     | 回  | 年号 | 年卒 | 氏名    |
|----|----|----|--------|----|----|----|--------|----|----|----|-------|
| 50 | 昭和 | 38 | 脇谷紀代子  | 54 | 昭和 | 42 | 向井鏖三郎  | 59 | 昭和 | 47 | 駒田由美子 |
| 50 | 昭和 | 38 | 宮澤英雄   | 55 | 昭和 | 43 | 井上満子   | 59 | 昭和 | 47 | 三輪 保  |
| 50 | 昭和 | 38 | 秋本紀子   | 55 | 昭和 | 43 | 井上みどり  | 59 | 昭和 | 47 | 松本茂外志 |
| 50 | 昭和 | 38 | 川田桂子   | 55 | 昭和 | 43 | 奥村啓輔   | 59 | 昭和 | 47 | 清水善行  |
| 50 | 昭和 | 38 | 前田一郎   | 55 | 昭和 | 43 | 柿崎直和   | 59 | 昭和 | 47 | 井本直樹  |
| 50 | 昭和 | 38 | 飯田武治   | 55 | 昭和 | 43 | 松野 萌   | 59 | 昭和 | 47 | 村上香代子 |
| 50 | 昭和 | 38 | 武石万里子  | 55 | 昭和 | 43 | 石橋嘉夫   | 60 | 昭和 | 48 | 山下晴義  |
| 50 | 昭和 | 38 | 福田昌平   | 55 | 昭和 | 43 | 太田晴美   | 60 | 昭和 | 48 | 田谷榮子  |
| 50 | 昭和 | 38 | 木原幸弘   | 55 | 昭和 | 43 | 滝沢春美   | 60 | 昭和 | 48 | 田中加代子 |
| 50 | 昭和 | 38 | 高野祐子   | 55 | 昭和 | 43 | 檀原宏文   | 60 | 昭和 | 48 | 中西憲幸  |
| 51 | 昭和 | 39 | 加賀美壯一  | 55 | 昭和 | 43 | 南 菖子   | 60 | 昭和 | 48 | 加藤マリ子 |
| 51 | 昭和 | 39 | 諏訪庸夫   | 55 | 昭和 | 43 | 梅本美智子  | 61 | 昭和 | 49 | 梶谷早苗  |
| 51 | 昭和 | 39 | 石塚典子   | 55 | 昭和 | 43 | 鈴木 隆   | 61 | 昭和 | 49 | 富永英嗣  |
| 51 | 昭和 | 39 | 島田輝子   | 55 | 昭和 | 43 | 加藤忠昭   | 61 | 昭和 | 49 | 富永節子  |
| 51 | 昭和 | 39 | 島田庄蔵   | 55 | 昭和 | 43 | 牧野由紀子  | 61 | 昭和 | 49 | 清永城右  |
| 51 | 昭和 | 39 | 那須邦久   | 56 | 昭和 | 44 | 山本 恵   | 62 | 昭和 | 50 | 浅川恵子  |
| 52 | 昭和 | 40 | 廣瀬南海子  | 56 | 昭和 | 44 | 深澤 宣   | 62 | 昭和 | 50 | 萩野洋子  |
| 52 | 昭和 | 40 | 小野澤カツ子 | 56 | 昭和 | 44 | 綿鍋維男   | 62 | 昭和 | 50 | 西山信右  |
| 52 | 昭和 | 40 | 是枝 潤   | 56 | 昭和 | 44 | 加藤正子   | 62 | 昭和 | 50 | 田島明美  |
| 52 | 昭和 | 40 | 星野洋子   | 56 | 昭和 | 44 | 金 知出   | 63 | 昭和 | 51 | 浅川 学  |
| 52 | 昭和 | 40 | 増田信男   | 56 | 昭和 | 44 | 横山司甫   | 63 | 昭和 | 51 | 萩野幸司  |
| 52 | 昭和 | 40 | 中島良信   | 57 | 昭和 | 45 | 本田伊都子  | 63 | 昭和 | 51 | 本郷富江  |
| 53 | 昭和 | 41 | 安西慶子   | 57 | 昭和 | 45 | 佐々木由紀子 | 64 | 昭和 | 52 | 坂口一夫  |
| 53 | 昭和 | 41 | 岩碯孝一   | 57 | 昭和 | 45 | 服部 仁   | 64 | 昭和 | 52 | 真船英一  |
| 53 | 昭和 | 41 | 曲淵徹雄   | 57 | 昭和 | 45 | 松林久一   | 64 | 昭和 | 52 | 西山 祥  |
| 53 | 昭和 | 41 | 坂本理英子  | 57 | 昭和 | 45 | 真野由比子  | 64 | 昭和 | 52 | 鈴木利之  |
| 53 | 昭和 | 41 | 中村和子   | 57 | 昭和 | 45 | 中島和彦   | 65 | 昭和 | 53 | 安光英太郎 |
| 53 | 昭和 | 41 | 南 法夫   | 57 | 昭和 | 45 | 天笠之珠子  | 65 | 昭和 | 53 | 井上祐司  |
| 53 | 昭和 | 41 | 林 聰    | 57 | 昭和 | 45 | 北野栄一   | 66 | 昭和 | 54 | 井上彩子  |
| 54 | 昭和 | 42 | 大内力男   | 57 | 昭和 | 45 | 林 昌美   | 66 | 昭和 | 54 | 大西弘章  |
| 54 | 昭和 | 42 | 竹内美千代  | 57 | 昭和 | 45 | 藤村元成   | 66 | 昭和 | 54 | 金子美代子 |
| 54 | 昭和 | 42 | 奥田昌子   | 57 | 昭和 | 45 | 伊藤要一   | 66 | 昭和 | 54 | 鹿田史紀  |
| 54 | 昭和 | 42 | 金森朱美   | 58 | 昭和 | 46 | 千田耕平   | 66 | 昭和 | 54 | 宮田康子  |
| 54 | 昭和 | 42 | 山口征司   | 58 | 昭和 | 46 | 上田宗央   | 66 | 昭和 | 54 | 井上 豊  |
| 54 | 昭和 | 42 | 市川 諭   | 58 | 昭和 | 46 | 石井誠司   | 66 | 昭和 | 54 | 加藤浩嗣  |
| 54 | 昭和 | 42 | 市川春子   | 58 | 昭和 | 46 | 村田悦郎   | 66 | 昭和 | 54 | 真船燕子  |
| 54 | 昭和 | 42 | 小木曾周子  | 58 | 昭和 | 46 | 穂苺 茂   | 66 | 昭和 | 54 | 川崎英之  |
| 54 | 昭和 | 42 | 庄司孝市   | 58 | 昭和 | 46 | 加藤健二   | 66 | 昭和 | 54 | 草柳淳子  |
| 54 | 昭和 | 42 | 庄司幸子   | 58 | 昭和 | 46 | 河内秀明   | 66 | 昭和 | 54 | 道見茂樹  |
| 54 | 昭和 | 42 | 松本令子   | 58 | 昭和 | 46 | 村上 学   | 66 | 昭和 | 54 | 道見優子  |
| 54 | 昭和 | 42 | 長谷見蓉子  | 58 | 昭和 | 46 | 吉富恭助   | 68 | 昭和 | 56 | 健名洋貴  |
| 54 | 昭和 | 42 | 牧戸宏行   | 59 | 昭和 | 47 | 三浦嘉統   | 68 | 昭和 | 56 | 益見厚子  |

| 回  | 年号 | 年卒 | 氏名    | 回  | 年号 | 年卒 | 氏名    | 回   | 年号 | 年卒 | 氏名    |
|----|----|----|-------|----|----|----|-------|-----|----|----|-------|
| 69 | 昭和 | 57 | 塚本尋子  | 76 | 平成 | 元年 | 朝倉 渡  | 84  | 平成 | 9  | 平岡良隆  |
| 69 | 昭和 | 57 | 野尻幸子  | 76 | 平成 | 元年 | 畠山伸二  | 85  | 平成 | 10 | 高瀬明子  |
| 69 | 昭和 | 57 | 小林真弓  | 77 | 平成 | 2  | 紺谷 徹  | 86  | 平成 | 11 | 鶴飼政志  |
| 69 | 昭和 | 57 | 竹内 誠  | 77 | 平成 | 2  | 増本純也  | 86  | 平成 | 11 | 大野いずみ |
| 70 | 昭和 | 58 | 遠藤義之  | 77 | 平成 | 2  | 齋藤みのり | 86  | 平成 | 11 | 鈴木智之  |
| 70 | 昭和 | 58 | 浦本博志  | 78 | 平成 | 3  | 出崎克也  | 87  | 平成 | 12 | 森口博行  |
| 70 | 昭和 | 58 | 山口貴史  | 78 | 平成 | 3  | 坂東裕志  | 87  | 平成 | 12 | 増田優子  |
| 70 | 昭和 | 58 | 茂呂今日子 | 79 | 平成 | 4  | 倪 健偉  | 88  | 平成 | 13 | 伊藤武郎  |
| 71 | 昭和 | 59 | 小澤佐余子 | 81 | 平成 | 6  | 杉山 潔  | 89  | 平成 | 14 | 代木洋司  |
| 71 | 昭和 | 59 | 松井哲夫  | 82 | 平成 | 7  | 井上博文  | 90  | 平成 | 15 | 上野陽子  |
| 71 | 昭和 | 59 | 黒田豊志  | 82 | 平成 | 7  | 鏑木淳平  | 93  | 平成 | 18 | 齋藤智之  |
| 72 | 昭和 | 60 | 嵯峨 學  | 83 | 平成 | 8  | 東 美恵  | 旧職員 |    |    | 中込和哉  |
| 72 | 昭和 | 60 | 小林 護  | 84 | 平成 | 9  | 木村 徹  | 旧職員 |    |    | 渡辺和夫  |
| 72 | 昭和 | 60 | 内山 務  | 84 | 平成 | 9  | 宅和知文  |     |    |    |       |



平成24年度薬窓会首都圏支部総会集合写真（平成24年6月30日）

## — 首都圏支部年会費振込みのお願い —

支部の資産に黄色信号が点滅しています。

支部長挨拶にもありますが、昨年より年会費を1,000円以上としたことにより、一定の効果が上がりました。この趣旨を汲んでいただき、同封いたしました郵便振込用紙又は下記銀行口座に平成25年度首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。なお、会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。

よろしくお願い申し上げます。

銀行名：北陸銀行 新宿支店

口座名：富山薬窓会 首都圏支部

口座番号：2552140

## — 編集後記 —

ここ数年、若い会員の支部総会や三金会への出席が多くなってきました。宅和さんや五月女さんからその雰囲気詳しく紹介していただきましたので、是非皆さんも顔を出してください。

首都圏支部の資産減少対策として、総会案内や遠久朶の発送を有志の方々と役員で行いました。昔は支部長、幹事長の会社には同窓生が沢山いて、上司の号令のもと手作業で行っていたと聞いていますが、時世を経て今はそう言うわけにもいかず、また役員負担が大きくなるため、役員へのなり手を採すのに困難を来すなどの理由から、事務局に依頼してきました。

今回、昔のように手弁当で行うことについて、負担が大きき今後も継続していけるかが最も危惧された点でしたが、思ったより短時間で終えることができ、これなら継続可能と一安心できました。

今後も経費節約に努めますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の定期総会へのご出席をよろしくお願いいたします。

(幹事長 66、S54年卒 道見 茂樹)

## 事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

富山薬窓会首都圏支部幹事長

アサヒ興業(株)宇田川：uda@pop-asahi.co.jp

道見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

## 平成25年度「薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：平成25年 6月29日（土） 14時30分～19時

場 所：「茗溪会館」地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅から徒歩3分

住所：文京区大塚1-5-3 TEL：03(3943)0321

会 費：男性：8,000円、女性：6,000円（ご夫妻で出席の場合13,000円）

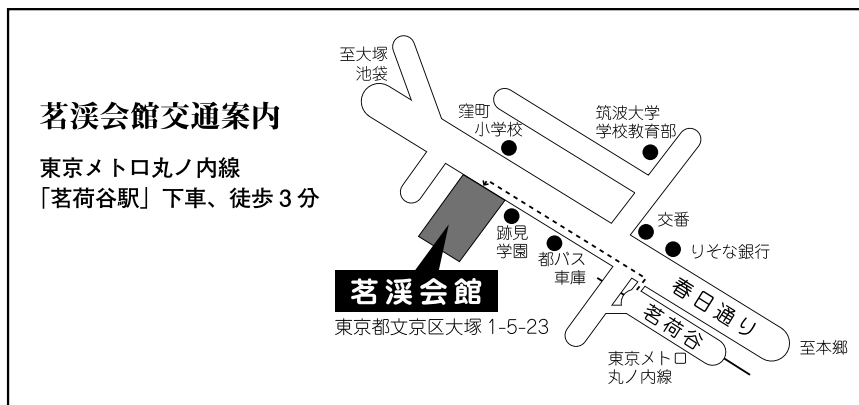
平成11年3月～平成20年3月の卒業生：5,000円（男女とも）

卒業後5年まで（平成21年3月～25年3月）：無料

話題提供 ① 鏑木 淳平氏（82回卒）「ミステリアスなPMSの世界」

② 内山 務氏（72回卒）「医薬品産業における諸制度と知的財産戦略」

- \* 会場は昨年と同じです。
- \* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。
- \* 総会に出席された方には、薬剤師研修シール（1点）をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。



### 薬多津三金会 今年の開催日

5月17日（金）、6月21日（金）、7月19日（金）、8月16日（金）、

9月20日（金）、10月18日（金）、11月15日（金）、12月20日（金）

毎月欠かさず第3金曜日午後6時30分から牛タンを食べながら呑んでいます。